



# いきいき通信

162号 (平成30年11月号)

iki iki - tushin

Take Free!

## 時を超えて響き渡れ！「光明寺鐘撞堂&二王門見学会」開催

11月18日(日)、奥上林地域振興協議会は「国宝・光明寺二王門と鐘撞堂見学会」を開催しました。光明寺鐘撞堂の完成報告に併せ、工事用の覆いが2年半ぶりに取り払われた二王門の見学会を実施。君尾山一帯で延べ500名が参加、赤や黄に彩られた秋の奥上林を賑わせました。

午前、二王門、鐘撞堂それぞれで、梅林和尚による法要が営まれたあと、「光明寺・鐘撞堂修復事業完成報告会及び見学会」を開催。熊内奥上林連長、梅林和尚による謝辞に続き、山崎市長、渡辺中上林連長による祝辞が述べられました。

その後、上林小・中一貫校児童12名が、上林の願いと決意をのせた「メッセージ発信」を披露。「たくさんの人たちに、この鐘の音を伝え、上林の歴史を伝えていきます。上林のみなさんと一緒に、元気な上林を作っていきます」という力強いメッセージに、会場の参加者は大きな拍手を送っていました。

上林を守っていく決意を披露した小学生らとともに、梵鐘の打ち初めを実施。その後の小中一貫校・若鮎太鼓と上林太鼓保存会による太鼓演奏とあわせ、参加者の胸を熱くする時間を演出してくれました。

また、午後からは「見学会」を実施。地元貢献型特別研究に取り組む京都府立大学の横内教授らによる説明会が、修復された二王門と特別公開された光明寺本堂の2か所で行われました。見学会には当初の想定を大きく上回る来場者があり、九州や京阪神などからの参加もありました。

熊内連長は、「上林の地で、光明寺の鐘の音が響き続けてほしい、という願いを多くの方々で共有できた。そして京都北部唯一の国宝である、光明寺・二王門を通じ、奥上林という場所を、広く知ってもらえる機会となった。鐘の音、という一つの象徴が、これからも響き続けてくれれば」と奥上林の将来を見据えられながら話されていました。



打ち初めは奥上林の各代表と児童らが一緒に

## 舞鶴市で「水源の里のこれから」を考えるシンポジウム開催

11月1日(木)、2日(金)、第12回全国水源の里シンポジウムが、京都府舞鶴市で開催。約500名が会場に集いました。11月1日(木)のシンポジウムでは、東京大学名誉教授の大森彌氏による基調講演「農山漁村と都市の共生」や、パネルディスカッションを通じ、「定住しないと地域貢献はできないのか？」という視点をもとに議論を展開。地域を訪ねる「交流」と、地域に住む「定住」の間には、「居住はしていないけれども地域と深い関係性を持つ人がいる」、という視点を提案。「関係人口」という概念が紹介され、新たな水源の里の取組の方向性を提案しました。

また、2日(金)には現地視察として約100名が西方寺平地域や杉山地域を訪問。先進事例を学びながら、現地の方々との意見交換をされました。来年は香川県のまんのう町と琴平町で合同開催される予定です。



「一番大事なのは人と人の共生」と話す大森教授

## 子供たちのまごころ伝えた「上林フェスティバル」

11月3日（土）上林小・中一貫校で「つなげる笑顔 つなぐ想い つながる上林（ふるさと）」をスローガンに「上林フェスティバル」が開催。児童生徒や保護者のほか、地元住民ら約200名が参加しました。

上林太鼓によるオープニング、開会挨拶に続き、小学生らによる上林に住む方々や地域の特徴、歴史などをまとめた「ふるさと学習」を発表。1・2年生児童による「上林よ〜いドン!」では、ニュース番組のような構成で、ふるさと学習の先生役を努められた方々を各集落の「人間国宝」に指定し、表彰するなど、どの発表も趣向を凝らした見ごたえある内容でした。

続いて、PTAの合唱、小学生による合唱が披露され、その後、中学生の少年・少女の成長を描いた演劇「ふるさと」が、中学生児童により上演されました。

最後に、小中学生による「上林（ふるさと）」が合唱され、会場は大きな拍手に包まれていました。



「水源の里・草壁の人間国宝」に認定された野々垣絹枝さん

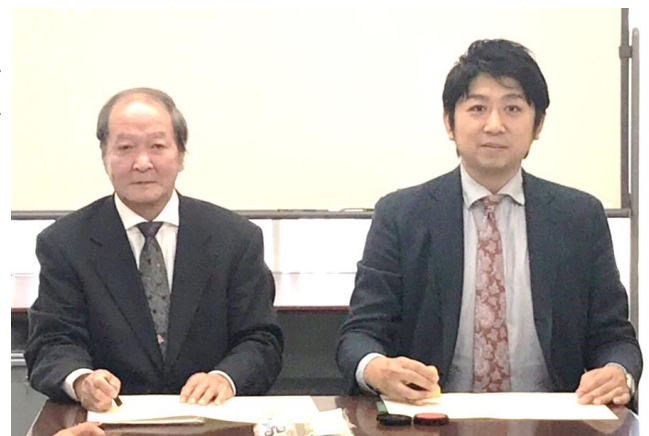
## 水源の里・老富、UA ゼンセンとまちづくり協定締結

水源の里・老富が「水源の里老富ミツマタ・シャガ群生地」整備などの取組を推進するため、国内最大の産業別労働組合であるUA ゼンセン（全国繊維化学食品流通サービス一般労働組合同盟）京都府支部の方々が、ボランティアとして協力していただきます。

これに先立ち、平成30年11月6日（火）、京都市内で老富とUA ゼンセンが、綾部市役所定住・地域政策課立ち会いのもと、協定書の調印を行いました。

協定書にはミツマタ・シャガ群生地の整備だけでなく、水源の里・老富のイベントへの支援等も掲げられており、水源の里と都市住民との新たな連携モデルとなりそうです。

12月1日（土）には、第1回目となるボランティアを開催される予定で、都市部の住民ら30名程度がミツマタ群生地のミツマタに降雪による折れを防ぐための支えを設置する、雪害対策に取り組まれます。また、来年度の7、8月ごろには、第2回のボランティアも計画しておられます。



調印する渡辺代表とUA ゼンセン前田憲吾京都支部書記長

## 上林川を美しくする会「上林川環境美化大作戦」を実施

上林川を美しくする会（会長 熊内久志）は、来る11月25日（日）午前中に、ボランティア清掃活動「上林川環境美化大作戦」を実施します。

【内 容】上林川及び支流の川辺に捨てられた空き缶、空き瓶などのごみ拾いを各地区単位で行います。実施される地元自治会で、清掃活動にぜひご参加ください。

【日 時】11月25日（日）午前中1時間程度

【集積場所】奥上林地区…林業者等健康管理センター（奥上林公民館）、中上林地区…観光センター（中上林公民館）

【集積時間】午前10時までにごみを各集積場所に集めてください。事務局が順次ごみ収集を行います。

※上林地区で参加される方は、午前8時より1時間程度清掃活動を行いますので、健康ファミリーセンターに集合してください。

※家庭ごみは対象としません。また、家電製品やタイヤ等の不法投棄物については、発見者自身で対処せず、「投棄されている場所・廃棄物・状況」を後日、環境保全課に連絡してください。

【お問い合わせ】上林川を美しくする会事務局（綾部市役所環境保全課管理担当）電話.42-1489

告知